

令和7年度 第3回『人生会議 ACP』事例検討会

まつえアドバンス・ケア・プランニング普及・啓発推進協議会終末期グループでは、年3回事例検討会を開催し、毎回多くの医療・介護関係者のみなさまに、ご参加いただき意見交換を行うことで ACP について学びを深めています。令和8年3月13日、令和7年度第3回目の ACP 事例検討会を開催し、40名の医療・介護関係者のみなさまに、ご参加いただきました！ 今回の事例検討会のテーマは「透析患者の ACP」です。

1. 事例紹介：『透析患者の ACP』

- ✓ 発表者 松江赤十字病院 看護師 岡嶋 紗央 氏
- ✓ コメンテーター 前松江赤十字病院 透析センター長 漆谷 義徳 氏

事例紹介では、岡嶋氏から透析困難状態となった女性患者に対して、同じ透析治療を受けている夫と共に、今後の過ごし方の意向をたびたび確認したエピソードをお話いただきました。最後は、本人が夫の意向を尊重され病室で3日間を共に過ごされたとのことでした。

コメンテーターの漆谷先生からは、家族が元気な状況だと家で最期を迎えることは可能だが、今回のケースでは、夫も透析患者であり、家で看取することは困難に感じたようだ。2人とも透析のつらさを十分知っているからこそその結論だと思ってお話いただきました。



グループトーク

すべてのグループに日赤の職員に参加いただいたことで事例への理解が深まり、効果的なグループワークとなりました！

質疑応答 (一部抜粋)

Q.もう一度最初からこのケースに関わるとしたら、どのようにかかわるか？

A.岡嶋看護師⇒ 透析困難症は動くことが難しいので、もっと早い段階で、一時退院を多職種で検討出来るかなと思う。

Q.もし主治医だったらどのようにしたか？

A.漆谷先生⇒ 家族の覚悟があれば在宅看取りは出来る。ただ日赤ではこれは出来ない。具体的なイメージを持ってもらうための支援をどれだけ出来るかが、病院の医師として重要である。

Q.いつの段階で ACP の働きかけをしたのか？

A.岡嶋看護師 ⇒ 関係各所(介護タクシー業者等)で何度もカンファレンスを行ってきた。入院した時に本人が自分の気持ちをしっかり伝えてきたので、本人の中で考えがまとまっていたと思う。



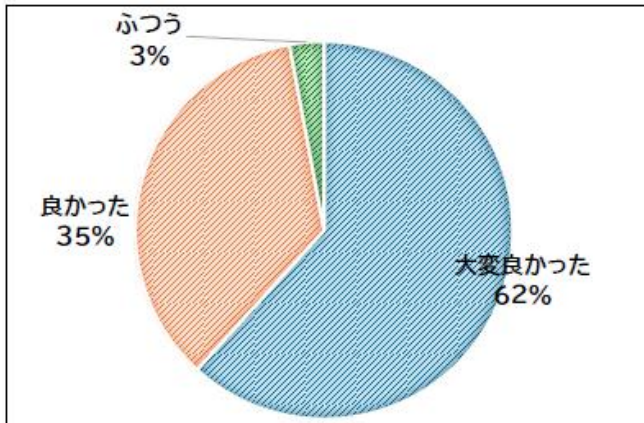
R7年度第3回ACP事例検討会 アンケート結果

回答：34名

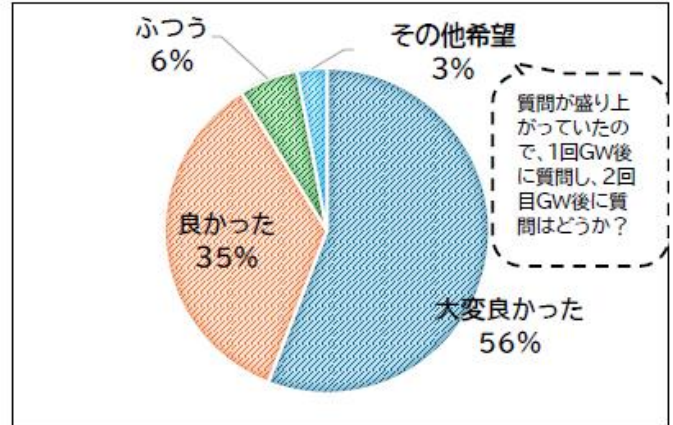
回収率： 100%

2026.3.18

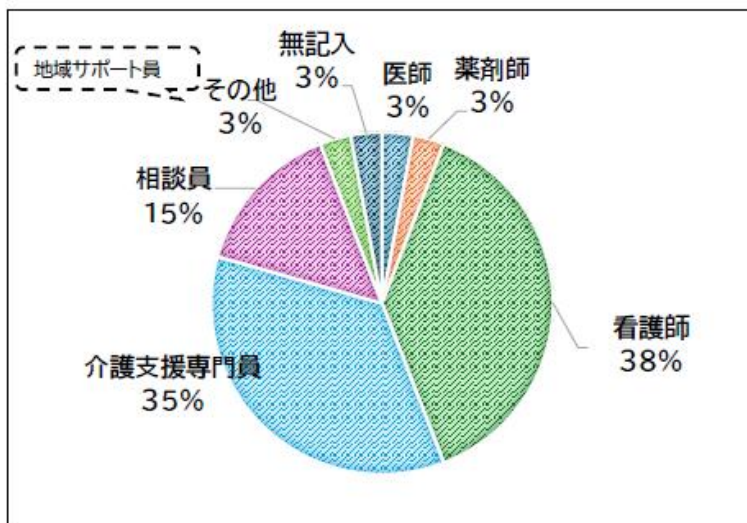
問1. 事例検討会の内容について感想を伺います



問2. 事例検討会の形式について感想を伺います



問3. 職種を伺います



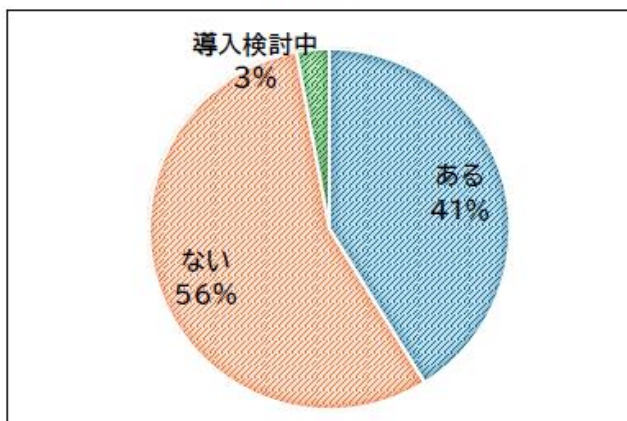
問6. 今後事例検討会で希望する疾患等

- 繰り返す誤嚥性肺炎患者
- 身寄りのない人の支援
- 認知症・COPD
- 夫婦2人暮らしで全介助支援の場合
- 治療方針が正反対の場合
- 現在元気な方の今後のサポート

【感想等自由意見】

- ・忙しい病院の中で細やかに看取りをされていて驚いた。貴重な話に感謝。
- ・多職種の方と情報交換出来て在宅のリアルな問題に触れることができた。
- ・急変や透析困難になってからでは遅いなど、ACPのタイミングが難しい事がわかった。
- ・各席に日赤の看護師がおられてより具体的な話が聞けて理解できた。
- ・先生からの助言もわかり易かった。 など

問4. 自施設内でACP事例検討会を行ったことがありますか



問5. 患者又は利用者の情報提供の際にACPIに関する情報を必要時記載していますか

